

編 集 後 記

平成21年3月24日に第2回ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）の決勝戦が日本代表（侍ジャパン）と韓国代表との間で行われ、延長10回2死2・3塁からイチロー選手の中前打で2点を勝ち越した侍ジャパンが優勝しました。今回の侍ジャパンの特徴は、ホームランバッターが長打をガンガンと打ちまくるような派手さはなく、投手がきっちりと相手打線を抑えている間に打者はヒットをコツコツと重ねて次の打者につなぎ得点を重ねる「スモールベースボール」でした。すなわち、チームプレイの大切さを知らしめ、For the team—チームが勝つために全力を尽くす—侍ジャパンが最後まで粘り強く戦い、全員で勝ち獲った世界の座でした。今回、話題になったこの「スモールベースボール」の精神は、医学の世界にも通用するものです。

昭和49年4月、私が東京女子医科大学消化器病センターに入局したとき、当時の所長で中山恒明教授の訓話をお聞きできる機会が毎週月曜日夕方にありました。このときに所長の中山恒明教授からお聞きした訓話で一番思い出あるお話は、「医学の世界では、一発ホームランを狙ってはいけません。コツコツとヒットを打ち続けなさい。始めたら辞めないで続けることが成功の秘訣です。患者さんは教科書です。時間があれば常に患者さんのところに行き、患者さんの話を聞きなさい。患者さんが何を望んでいるかを知りなさい。“For the patient”—患者さんのために全力を尽くしなさい」と教えられたことです。当時の中山恒明教授の訓話と、今回の侍ジャパンの「スモールベースボール」の考え方とは、まったく同じ精神でした。すなわち、チームあるいは患者さんのために全力を尽くすこと、チームあるいは患者さんと信頼関係を築くことの二つの事柄です。現在、「For the patient—患者さんのために全力を尽くしなさい」、この精神を私は後輩に伝承したいと思って日々実践しています。

（安田秀喜）